

目次

本書の発刊に寄せて …… 高岡高等学校同窓会長 堂哉 茂

一、はじめに …… 七

二、同行者の顔ぶれ …… 九

九名のかたい絆

松村謙三のこと

石田義太郎のこと

砂土居嵩のこと

安念次郎左衛門のこと

三、旅程 …… 一二

旅程の概略

七月二十二日

瑞泉寺に集合

「コラム」 瑞泉寺の山門

記念撮影と小形の写真機

栃原峠を越えて

利賀の焼畑

米を持参すれば

栃原の綽如上人旧跡

吊橋渡り長崎へ

「コラム」 ホットトギスとウグイス

真夏の雪と大牧温泉

七月二十三日 …… 二三

祖山への険しい道と下谷の滝

「コラム」 大槻伝蔵と加賀騒動

麦屋節の里 下梨

細島で中谷豊充に会う

西赤尾の行徳寺へ

「コラム」 赤尾の道宗

七月二十四日 …… 二九

飛越国境にて

内ヶ戸の老爺に感銘

「コラム」 白山信仰の広がり

鳩ヶ谷の嘉念坊道場

「コラム」 道場と毛坊主

痛恨のトラブル

七月二十五日 …… 三五

荻町の投書函

帰雲城の黄金

平瀬歩危の断崖

「コラム」 表札の謎

御母衣の番茶売る家

湖底に沈んだ村

魔の福島歩危

尾神の「であい」で泳ぐ

山中なのに海上とは

中野の巨大な桜

中野小学校の子供たち

砂金に目を見張る

莊川村の豪農

「コラム」大原騒動と上木屋甚兵衛

「コラム」時振器とは

七月二十六日 …………… 四九

黒谷の浄念寺と天正大地震

莊川鉾山で貴重な体験

人家途絶える軽岡峠

「コラム」黄鳥とは何か

「コラム」松村と石田の文章力

六厩鉾山と女滝の山姥

高山への道

旌忠碑を探す

七月二十七日 …………… 五八

高山町 名所旧跡巡り

金森長近と城山公園

ハイカラな山岸写真館

「コラム」一位細工の土産物

照蓮寺の天女は左利き

雲龍寺の鐘楼門

大雄寺の山門

宮川と鍛冶橋

国分寺の三重塔

郡役所と高山陣屋

七月二十八日 …………… 六三

斐太中学校と白線流し

安国寺の経蔵

朝霧の底に眠る霊

江馬一族の古里

七月二十九日 …………… 六八

神岡鉾山を見学する

(仮説一) 越中東街道を行く

ウエストンが辿った道

(仮説二) 越中中街道と凡兆岩

県境の勿橋と一軒家

「コラム」籠の渡

里程元標に感激する

夜の庵谷峠越え

近代的な笹津橋

七月三十日 …………… 八〇

熊野川を舟で下る

神通川の河川改修

富山市街地へ

解散地の謎

当時の鉄道事情

探険旅行を振り返り

四、歌いながら …………… 八四

広いレパートリー

新体詩

唱歌

賛美歌

箱根八里

鉄道唱歌

はやり歌

軍歌

漢詩

「コラム」談判破裂

五、旅費について …………… 九一

宿泊料など

ハガキと印紙

六、「探険記」と修学旅行 …………… 九四

七、松村謙三の思い …………… 九五

あとがき …………… 九八

〔翻刻〕五箇山探険記 附 斐太探険記 …………… 一〇〇

原本複写 …………… 一一一

主な参考文献 …………… 一二一

〔凡例〕

本文中、人名(同行者名)は初出以外、原則として姓のみにとどめ、敬称は略した。

読みやすいように、旧字体はできるだけ新字体に変換(合意訳転換)したが、「」に原本を引用する場合はそのままとした。

表紙写真は、五箇山相倉の合掌造り集落の朝。

